

薬局新聞

2023年 春号



《インフルエンザ Q&A》



“インフルエンザ”と“風邪”の違い

風邪	様々なウイルス	喉の痛み、咳、鼻水、くしゃみ、発熱（あまり重症化しない）
インフルエンザ	インフルエンザウイルス	38度以上の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感などの症状が比較的急速に現れる 併せて喉の痛み、咳、鼻水、くしゃみなど 小児はまれに急性脳症、高齢者は二次性肺炎（重症化）

インフルエンザの薬

タミフル	オセルタミビル	1日2回 5日間 (カプセル)	A型 B型、感染予防
ゾフルーザ	バロキサビル マルボキシル	1回のみ (錠剤)	A型 B型
ラビアクタ	ペラミビル	1日1回 1~5日間 (点滴静注)	A型 B型
イナビル	ラニナミビル	1回のみ (吸入)	A型 B型、(感染予防)
リレンザ	ザナミビル	1日2回 5日間 (吸入)	A型 B型、感染予防
シンメトレル	アマンタジン	1日1~2回 最長7日間 (錠剤)	A型

インフルエンザ感染時の異常行動

- ・インフルエンザに感染した際は、抗インフルエンザウイルス薬の服用の有無や種類にかかわらず、異常行動が報告されている(就学以降の小児・未成年者の男性で報告が多い)
少なくとも発熱から2日間は事故に対する予防策が必要とされる
- ★異常行動の例:突然立ち上がって出ていく、興奮して飛び降りる、話かけても反応しない、外に飛び出す

抗菌薬はインフルエンザに効果があるか

- ・インフルエンザウイルスに抗菌薬は効果なし
- ・体が弱っている時は肺炎球菌などの細菌にも感染しやすい
細菌にもウイルスにも感染(混合感染)し、気管支炎や肺炎などの合併症に対する治療として抗菌薬が使用されることがある

インフルエンザワクチンの有効性

- ・「感染」を完全に抑えることは出来ない
- ・主にインフルエンザの「合併症」が減少し、「重症化」及び「死亡率」を抑制する
- ・65歳以上の高齢者において、34~55%の発病を阻止し、82%の死亡を阻止する効果があったと報告あり

インフルエンザの外出制限

インフルエンザ発症前日から発症後3~7日間は鼻やのどからウイルスを排出しているといわれているため、外出を控える必要がある

学校保健安全法

「発症した後5日を経過し、かつ、解熱したあと2日(幼児にあっては3日)を経過するまで」をインフルエンザによる出席停止期間としている(ただし、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるときは、この限りでない)

インフルエンザワクチン

- ★効果持続期間 接種後 約2週間後から 3~6か月間
- ★副反応 24時間以内に発症することが多い
- ★注意事項 入浴可能。注射部位を強く揉まない
大量の飲酒は避ける
- ★対象者 生後6か月以降。妊婦可

お気軽に
ご相談下さい

東加古川病院 薬局
加古川市平岡町新在家 1197-3

